

drawings A, drawings B,

Maekawa Koji

前川 紘士 個展

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

[DMデザイン/バーナーデザイン]
藤本敏行

[協力]

加藤壽美子・加納俊輔・河村啓生・木村靖隆 (un-do design)・黒木結・竹内秀典・
藤本敏行・大阪府立江之子島文化芸術創造センター / enoco・ひと花センター

【アーティスト・トーク】 10月27日 (土) 15:00～

【作家在廊日】 会期中の金・土・日 *ただし26日(金)は17:00～

本展では、複数の異なる仕組みを持つドローイング群を展示します。近年の「大きさ」「かたち」「数」への関心を引き継ぎ、新たに「触れること」を制作の条件に含めたものを加えた作品群です。

私は「ドローイング」という言葉を、完成の為の下絵や即興的な作画としてのみではなく、かたちを作り、捉え、それへの反応を繰り返し確かめる過程に重きを置いた制作方法に対しても使っています。それぞれ最初に大まかなルールを設定し、実際に身体を通してドローイングを実行する中で見えてくる大小の気づきや疑問への反応を繰り返しながら制作を進め、ルール自体の調整も行いつつ、個別の方法を通して見えてくるものを探っています。

一滴の雫が持つ物理的な大きさ(毎回変わるがある閾値内に収まる)を単位とし、工業規格から導き出される格子や大きさと重ね合わせた空間の中で、即興的なかたちの配置や変形を行なう《雫と規格 - Drops and standards》、ラインテープを用い、触れて(撫でて)捉えることと、見て捉えることの異同や重なりを探る《ラインテープドローイング - Drafting tape drawings》、左右の手で、握ったもののかたちを頭

の中で合成させ、目を使わずかたちを手で捉えることと、情報の合成の関係について考えるための《かたちの合成 from 両手 - Synthesis of form from hands》など、数種のドローイングです。これらのドローイングのシリーズは、それぞれ仕組みも進度も異なるものですが、探求するポイントや形式面で互いに重なる部分や補完し合う部分を持ちます。

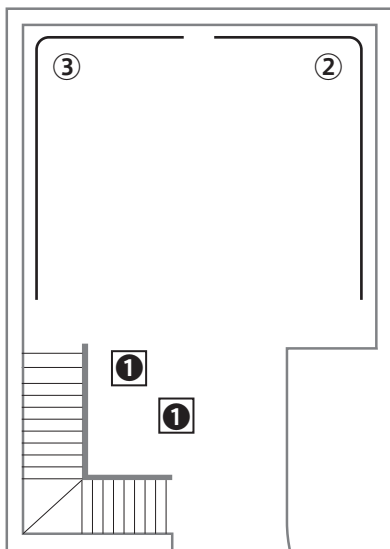
また、個人での制作と並行して行なっている活動の中から、「社会の様々な場で作られた作品群の比較」に関する資料を提示します。上記のドローイングとの直接の関係は無いのですが、近年関心を持ちリサーチを行なっている「作品群を比較すること」についての現状報告の機会とするとともに、他のドローイングと合わせて展示することで、「複数の絵をまとまりとして捉えること」について考える機会を作ります。

複数のアプローチでの「ドローイング(的なもの)」を並べることで、制作や関心の状況を確認し、共有する機会としたいと思っています。

前川 紘士

展示作品 ※本展の展示作品はどれも「見る | 触れる」鑑賞を前提にしたものです。ただし、リスト内○の作品にはお手を触れないでください。

2F

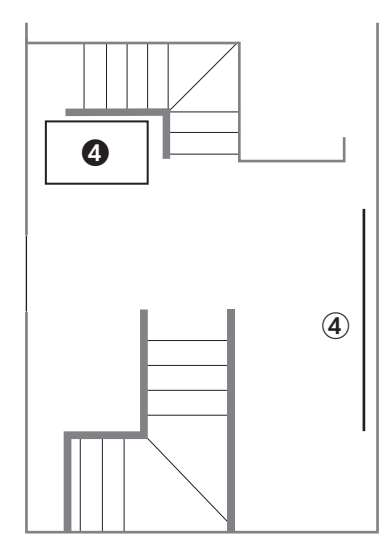


① かたちの合成 from 両手
Synthesis of forms from hands

② 100_雫と規格_#1 [A0~A5]
100_Drops and standards_#1
2018 アクリル絵の具, 紙

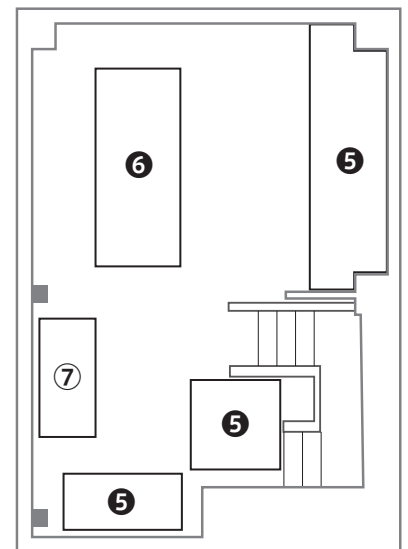
③ 100_雫と規格_#2 [A0~A5]
100_Drops and standards_#2
2018 アクリル絵の具, 紙

3F



④ works(=)others
撮影画像資料
Image material of "works(=)others"
*現在進行中のリサーチの資料として

4F



⑤ ラインテープドローイング
Drafting tape drawings

⑥ かたちの合成 from 両手
Synthesis of forms from hands

⑦ “かたちの合成 from 両手”
のためのピース
Piece of "Synthesis of forms from
hands"